

4月7日「着任式・始業式」

4月7日(火)、小桧小学校にて着任式と始業式が執り行われました。

春の柔らかな日差しが差し込む体育館には、進級して一つ上の学年になった子どもたちの、誇らしげで晴れやかな表情が並びました。会場全体が「これから新しい一年が始まるんだ」という期待感と、新しく着任された先生方との出会いを心待ちにする温かな雰囲気になっています。

新担任の発表や先生方の挨拶に目を輝かせる児童たちの姿からは、学習や運動、そして仲間との絆を深めていこうとする力強い決意が感じられました。小桧小学校の新たな一歩を祝うような、希望に満ちあふれた素晴らしい日となりました。







着任式では、新しく小榊小学校にいらした先生方お一人おひとりから、心のこもったご挨拶をいただきました。先生方が語る「小榊小学校の子どもたちに会えるのを、ずっと楽しみにしていました」という喜びの言葉を、児童たちは背筋を伸ばし、目を輝かせながら真剣に聞き入っていました。



児童代表の6年生からは、新しくいらした先生方を心から歓迎する、温かくも力強い言葉が贈られました。「小榊小学校の素晴らしい伝統を、先生方と一緒にさらに築き上げていきたい」という真っ直ぐな決意を言葉に込めました。



続いて行われた始業式では、校長先生より今年度の指針となる大切なお話がありました。

まず、目指すべき姿として掲げられたのは、「気づき」「考え」「実行していくこと」の3つのステップです。身の回りの変化や仲間の気持ちにいち早く「気づき」、自分に何ができるかを深く「考え」、そして勇氣を持って一步「実行」に移す。そんな自立した姿を目標に、この一年間取り組んでいこうと呼びかけられました。

また、一学期の具体的なルールとして強調されたのが、「黙ってすみずみまできれいに掃除をすること」です。自分たちが過ごす学び舎を、心を込めて無言で磨き上げる。その静かな奉仕の時間が、自分自身の心をも磨き、落ち着いた学校生活の土台を作るということを共有しました。

校長先生の言葉を真剣な眼差しで受け止める子どもたちの姿からは、新しい目標に向かって自分を律し、高めていこうとする清々しい意欲が感じられました。



児童代表として登壇した6年生の言葉には、最高学年としての確かな自覚と、学校を背負って立つという強い覚悟が宿っていました。

そのスピーチでは、まず「今日から自分たちが小榎小学校の顔である」という自負を持ち、日々の生活の中で「6年生らしさ」をより一層高めていきたいという目標が語られました。下級生のお手本となるような学習態度や、優しさと思いやりを体現する姿を目指し、自分たち自身を磨き上げていくという宣言です。

さらに、これまで先輩方が築いてきた小榎小学校の輝かしい伝統をしっかりと引き継ぎ、自分たちの手ですらにより良いものへと発展させていきたいという、リーダーとしての熱い決意も述べられました。



そして、いよいよ始まる新しい一年を共にする「担任発表」の瞬間です。

新しく担任となる先生が前に出て子どもたちの前に立つと、会場は温かな拍手とともに、心地よい緊張感と「今年はどんなクラスになるんだろう」という大きな期待感に包まれました。



今年度最初の校歌の歌声が体育館に響き、活気あるスタートを切りました。